

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	佐世保市子ども発達センター 児童発達支援事業 にこにこルーム			
○保護者評価実施期間	令和7年9月10日～令和7年10月28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28名	(回答者数)	25名
○従業者評価実施期間	令和7年10月1日～令和7年10月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年12月18日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子通園であること。	家庭ではなかなかできない「対」の関わりを通して、お子様への理解を深め、より良い親子関係を築く場にしていただけたらと思っています。また、他の親子の方々と一緒に活動することで、関わり方のヒントを得たり、悩みや情報を共有したりすることができる場にもなるかと思います。家庭でも親子の時間を楽しんでいただけるよう、取り入れやすい遊びを紹介しています。	にこにこルームでの活動終了時の振り返りや保護者向け学習会、親子遠足など、保護者同士での情報共有や交流の場の機会を設けていますが、情報の発信や周知が不十分なところもあります。今後、情報発信や周知、交流の実施方法を検討していきます。
2	多職種による専門的支援が受けられること。 (理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士、保健師等)	グループに応じて、適切な専門スタッフを偏りなく配置するようにしています。お子様の発達や保護者のニーズに合わせて、配置スタッフ以外の専門的支援も受けられるよう、子ども発達センター内で連携を図っています。	お子様への関わりや対応方法など、保護者の方が実践しやすいようにわかりやすくフィードバックし、一步先を見据えたアドバイスも心がけています。
3	医療機関と同じ施設内で事業を行っていることで、連携が図れること。	日頃の様子を共有することができ、保護者からの相談や要望に迅速丁寧に対応できるよう努めています。	保護者の声を発達センター全体で共有し合い、より丁寧な支援につなげてまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者向け学習会(育児講座)の活発化。	年度初めに年間予定表を配布し、開催前にもお知らせをして周知徹底を図っています。より参加しやすい方法を検討し、今年度から試行的に開催方法を変更しています。普段利用しているグローブ活動の中での開催には参加しやすい様子が見られていますが、例年通りの開催方法ではやはり参加される方が少ない状況です。	グループ活動内の開催方法には保護者の方からも好意的なご意見をいただいておりますので、開催回数や内容など、ニーズに合わせて改善してまいります。それ以外の学習会も職員一丸となって検討・改善に取り組み、よりよい学習会の場の提供に努めてまいります。
2	地域の子どもとの交流やきょうだい児支援。	本事業内容や事業所立地などの要因から、地域交流やきょうだい児支援を実施することが難しいのが現状ですが、限られた条件の中でできることを検討していきたいと思っております。	同じ建物内に子育て支援センターがあることを活用して、地域交流を図るようにしています。また、きょうだい児支援につきましても保護者の方のニーズを拾いながら実施できることを検討してまいります。
3	非常災害等の訓練実施や周知、説明。	非常災害等の訓練につきまして、火災や不審者を想定した訓練を年に2回実施しておりますが、全員の方に参加していただくことが難しい状況です。	利用者すべての方に訓練実施や周知、説明が行き届くよう、実施回数や開催方法について検討したり、掲示物を活用したりして周知徹底に努めてまいります。